



# まもリテ

No.6

R 8.2.16

## メディアコントロール・プロジェクト 冬休みを経て

少し遅くなってしまいましたが、冬休み中のメディアコントロール・プロジェクトの結果分析をお届けいたします。まずは、低・中・高学年の特徴について表にまとめました。

区分	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）
目標の特徴	・「30分」「〇時まで」など具体的 ・雪遊び・工作・お手伝い中心 ・家族との活動が多い	・「やめる時刻を守る」など抽象化 ・習いごとが増加 ・読書量が増える	・読書が多い ・楽器練習・自主練習・家事 ・健康意識が増加 (睡眠・目を休めるなど)
メディアの中心	ゲーム・テレビ	ゲーム+動画	動画・スマホ・SNS 中心
振り返りの特徴	・「守れた!」「楽しかった」 ・評価がシンプル	・「守れない日もあった」 ・自己分析が始まる	・前半後半を比較 ・ゲームと動画を区別 ・将来を意識した記述
できている点	・やくそくを守ろうとする姿勢 ・体験活動が豊か	・意識して減らそうとする力 ・立て直す力	・自己管理意識の向上 ・優先順位を考える姿
課題	・つい見すぎてしまう	・できる日とできない日の波がある	・やめる時刻の徹底 ・夜間スマホ・長時間動画
保護者の傾向	・声かけ中心 ・タイマー活用	・見守りと助言	・見守り設定・時間制限 ・中学を見据える
キーワード	「やくそくを守る」	「時間を意識する」	「自分でコントロール」

### <全体から見えてきたこと>

低学年 → 決まりを守る経験を重ねる段階

中学年 → 守れない日も含めて、自分を振り返る段階

高学年 → 自分で分析し、改善を考える段階

高学年になるほど「守らせる段階」から「自分で考える段階」へと確実に成長しています。今後も、やめる力・切り替える力を育てながら、時間を大切に使える子どもを育てていきたいと考えています。



校長室から

## ～時間の使い方は、生き方につながる～

冬休みに実施した「メディアカレンダー」の取組から、子どもたちのさまざまな成長が見えてきました。

低学年では、「ゲームは30分」「〇時まで」など、具体的な目標を立て、雪遊びや工作、お手伝いなど体験を楽しむ姿が多く見られました。「きまりを守ろう」とする素直な姿勢が印象的でした。

中学年になると、「やめる時刻を守る」「だらだら見ない」など、時間そのものを意識する目標へと変わります。守れた日もあれば、守れなかった日もあります。しかし、「意識できた」「前よりよくなった」と振り返る姿からは、自分を見つめる力が確実に育っていることが分かります。

そして、高学年。読書や少年団の自主練習、楽器、家事の手伝いなど、自分を高める活動に向き合う姿が多く見られました。一方で、ゲームに加え、動画やスマートフォンとの向き合い方に悩む様子も見られました。自分自身を振り返り、「中学生になったらもっと意識したい」と将来を見据える記述もあり、成長を感じます。

今回の取組で最も多くあがった課題は、「やめる時刻を守ること」だったと思います。電子メディアは便利で楽しく、いろんな学びにもつながることは確かです。しかし、夢中になってしまうと時間はあっという間に過ぎてしまいます。

ここで大切なのは、「使うか、使わないか」ではなく、“自分で決めて、やめられるかどうか”です。

時間の使い方は、そのまま生き方につながります。今、目の前の楽しさを優先するのか。それとも、やるべきことを先に終わらせるのか。小さな選択の積み重ねが、自立へとつながっていきます。

子どもたちは、守れた日も、守れなかった日もありました。しかし、「意識しよう!」と考えたこと自体が大きな一歩につながるはずです。

学校ではこれからも、「やめる力」「切り替える力」「優先順位を考える力」が育っていくよう支えていきます。ご家庭と連携しながら、子どもたちが上手にメディアと付き合える力を身につけられるよう願っています。

3学期後半も、子どもたちの成長をともに見守ってまいりましょう。

